

# 高齢者を対象とした日常のスピリチュアルな 体験 (DSE) に関する研究 —英語文献を中心として—

岡本 宣雄\*<sup>1</sup>

## 要 約

本稿では、福祉領域、特にソーシャルワークに関連した高齢者の「日常のスピリチュアルな体験」(DSE: Daily Spiritual Experiences) について、英語圏の文献を取り上げ、文献研究を行い、高齢者の DSE の特徴と福祉領域における支援についての研究の動向を概観した。その結果、福祉領域における DSE 研究対象は、一般高齢者、すなわち、地域で暮らしを営む市民であった。これは、DSE を市民レベルまでに一般化し、よりその日常性を強調したものであるといえる。また、DSE 研究がこのスケール、すなわち、DSES (Daily Spiritual Experiences Scale) の方法による実証的研究のもと、広義の健康 (health) との関連で議論されていた。さらに、福祉領域における DSE を考慮した高齢者への支援では、ソーシャルサポートとの有意な関連が指摘された。ソーシャルサポートは、スピリチュアリティの特質である「超越なるもの」との関係、そして、コミュニティ等の社会関係のなかで機能し、高齢者の DSE と抑うつへの緩和に寄与していた。このことは、福祉領域における高齢者への生活支援において、DSE が考慮されていること、そして、ソーシャルサポートが確保されていることが重要であることを示唆していた。

## 1. 序論

### 1.1 問題の背景

#### 1.1.1 スピリチュアリティ研究とケアの動向

近年、スピリチュアリティは、人間がもつ普遍的な特質であり、存在の基盤となる価値や人生の意味にかかわる側面として理解され、病床での医療の治療や福祉の対人支援の場面で注目されている<sup>1)</sup>。スピリチュアリティは、1998年、WHO(世界保健機関)が提案した「健康の定義改正案」に加えられた<sup>2)</sup>。また、医療や福祉の領域では共通し、患者や利用者の QOL (生活の質) の意義が提唱され議論されている。このなかで、スピリチュアリティは、全人的な (holistic) 人間理解のもと、「人間存在の意味や目的、人生の意味に関わる領域 (p.53)」<sup>3)</sup> として、QOL の重要な下位概念のひとつとして認識されている (p.85-116)<sup>3)</sup>。本稿は、「スピリチュアリティとは、人間の普遍的な特質であり、自己、他者、超

越的なものとの関係のなかで、生きる意味を見出す生の側面である (p.33).」<sup>4)</sup> と定義する。

従来から、スピリチュアルケアは、ホスピス・緩和ケアの臨床で進展してきた (p.89-140)<sup>5)</sup>。そこでのケアの対象者は、主に、急性期にあるがん末期の患者が想定されてきた<sup>6)</sup>。福祉領域においても、スピリチュアリティを配慮した支援が要請されているが、いまだ、人生の危機に生起するスピリチュアルペインに焦点が当てられている。加えて、福祉領域の生活支援の文脈で、日常で体験されるスピリチュアリティへの研究やこれに留意した実践についての議論は十分になされていない。このことは、高齢者福祉の分野でも同様である。高齢者が日常の生活場面で体験するスピリチュアリティをいかに理解し、これに鑑みた生活支援ができるが課題となっている。この現状のなか、日常の生活場面で体験されるスピリチュアリティに焦点を当てた、「日常のスピ

\*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科  
(連絡先) 岡本宣雄 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学  
E-mail : nobuo@mw.kawasaki-m.ac.jp

リチュアルな体験」(Daily Spiritual Experiences : DSE 以下「DSE」と称する。)研究がある<sup>4)</sup>。

### 1. 1. 2 日常の生活場面で体験されるスピリチュアリティ

スピリチュアリティは、危機的な状況のみで経験されるのではなく、日常の生活場面においても体験される。DSEにも確かに、人生の様々な出来事で遭遇する困難や生活上での課題とつながるスピリチュアルペインとその苦悩がある。しかし、同時に、スピリチュアリティは、人間の生に意味を与え、「超越の次元」と「実存の次元」との関係から、「経験の次元」で暮らすわれわれに、人生の肯定と心の安寧をもたらす内的な強さ(ストレングス)の源泉として機能している<sup>7)</sup>。さらに、個人のスピリチュアリティは、ひとつの状態にとどまらず発達を遂げると解釈されている<sup>7)</sup>。

中村と長瀬<sup>5)</sup>は、現代社会において、スピリチュアリティが、生活実感をとまなう概念として認識されていることを指摘する(p.84)。福祉専門職は、ソーシャルワークの視点と知識、そしてその機能を用い、生活支援を実践する。その支援の実際の現場と焦点は、利用者個人とその人を取り巻く生活場面と生活環境である。宗教やスピリチュアリティは、高齢者の毎日の生活の重要な部分である。Watkins<sup>8)</sup>は、ソーシャルワーカーがこの事実を見落とすならば、高齢患者が、生活の質を高めるのを推進すること、対処すること、そして、サポートシステムに向けたストレングスの主要な源泉につながる機会を逃してしまうと述べている(p.135)。以上、筆者は、福祉領域における生活支援の観点から、必ずしも危機とは表現できない、生活の営みにある高齢者のDSEに焦点を当てた研究と実践が重要であると考える。

### 1. 2 研究の目的

わが国において、スピリチュアリティの概念は明確ではなく、スピリチュアリティに鑑みたケアは体系化されていない。この現状のなか、欧米はじめ、諸外国では伝統的に魂の配慮やスピリチュアルケアが医療領域や福祉領域の対人支援の現場で実践されている(p.49-70)<sup>9)</sup>。従って、筆者は、これら諸外国の実状を反映する英語圏の文献を取り上げることにより、わが国における、今後の福祉領域でのスピリチュアルケアの発展に期待できると考えた。

そこで本稿では、福祉領域、特にソーシャルワークに関連した高齢者の「日常のスピリチュアルな体験」(Daily Spiritual Experiences : DSE)について、英語圏の文献を取り上げ、これらの文献検索の結果をもとに文献研究を行い、DSEの概念とその内容を概観し、DSEを体感し生活を営む高齢者の

特徴、そして、福祉領域における高齢者を対象とするDSEに鑑みた有効な支援のあり方を模索する。

## 2. 研究方法

本研究は文献研究の手法を用いた。具体的には、検索エンジン「EBSCO HOST」を用い、欧米文献を検索し、抽出された文献を精査し、これら文献について考察を行った。検索日は、2018年3月27日である。このキーワード検索の手順は以下の通りである。①「DSE」(実際は「daily spiritual experiences」の用語で検索。以下同様。)[「older」][「social work」]:60件(2003~2018年)、②「DSE」[「aging」][「social work」]:44件、③「DSE」[「elder」][「social work」]:12件(2003~2018年)、④①②③を統合し、重複を除いて整理した。検索結果65件(2003年~2018年)であった。この65件のうち、DSEがタイトルにある文献は少数であった。そこで、検索キーワードを再考し、検索範囲を広げ、「DSE」(タイトルのみ)とし、かつ「social work」を除外し、次のように検索を行った。⑤「DSE」(タイトルのみ)[「older」]:15件(2002~2016年)、⑥「DSE」(タイトルのみ)[「Aging」]:15件(2008~2014年)、⑦「DSE」(タイトルのみ)[「elder」]:3件(2008~2010年)であった。⑧⑤⑥⑦を統合し、重複を除いて整理した。検索結果15件(2002~2016年)であった。最後に、ソーシャルワークに関連する、高齢者の「DSE」の内容を含んだ文献を網羅し、体系的に考察することを目指し、上記の④と⑧を統合し重複する文献を除いた。その結果、最終的に、76件(2002~2018年)となった。本研究は、これら76件の文献(「学術誌(査読あり)」)を主に取り上げ文献研究を行った。

以上のDSEに関連する文献検索の結果、抽出された76件を分類すると、次のようになった。①論文タイトルにDSEがある文献:15件、②ソーシャルサポート(social support)に関連する文献:9件、③住民、一般市民とその健康に関連する文献:10件、④心理学(特に、抑うつ)に関連する文献:27件、⑤DSE尺度の検証に関する文献:4件、⑥その他(対象に高齢者を含まない文献等):11件である。

本稿では、上記①論文タイトルにDSEがある文献15件を中心に概観した。その理由は、これらの文献が、DSEそのものを研究内容とし、かつ、これら全てがDSESを用いた研究であり、独立変数をDSEに設定した研究である等、DSEの概念の特徴およびこれに関連する因子を、効率的に考察できると考えたからである。

本稿における文献研究の分析の視点は、標準化されたDSEスケールを用いた研究論文における、日

常のスピリチュアルな体験 (DSE) の概念とその内容, DSE を体感し生活を営む高齢者の特徴, DSE に鑑みた有効な支援のあり方である。本稿では, DSES を用いた研究を通し, 高齢者の DSE の特徴と福祉領域における支援について考察する。

### 3. 日常のスピリチュアルな体験 (DSE) の研究の動向

#### 3.1 日常のスピリチュアルな体験スケール (DSES) の研究

##### 3.1.1 DSE の実証的研究

上記①論文タイトルに DSE を含む文献15件を概観した結果, これらすべての文献は, DSES を用いた実証的研究の方法を採用する研究であった。DSE の実証的研究は, そのアセスメントに関する研究のなかで進展してきた。Sanchez et al.<sup>10)</sup> は, 先行研究を踏まえ, DSE の内容を考察し「日常のスピリチュアルな体験は, 日常生活において, 超越なるもの (the transcendent) と関係する個人の知覚や感情である (p.12).」と定義している。

従来から, スピリチュアリティの実証的研究は, スピリチュアリティとこれに関連する変数を設定し, スピリチュアルな側面へのアセスメントを目指してきた。最近の研究では, 宗教的な / スピリチュアルな側面をアセスメントする際に, 精神 (心理) 測定ツールを使用し, それによって測定される変数との関連から, スピリチュアルな側面を捉え検討していく傾向がある。研究者は, これら多様なスケールの変数を用い, 多くの宗教的な / スピリチュアルな態度, 体験, そして行動を測定している。また, 様々なサンプルにて, 様々なスケールや質問項目を用い, 幸福 (well-being) との関連を測定している。しかしながら, ほとんどの研究者は, 健康 (health) と幸福 (well-being) に影響を及ぼす「平凡なスピリチュアルな体験」(routine spiritual experiences) をアセスメントすることに焦点を当ててこなかった (p.12)<sup>10)</sup>。

この状況のなか, 平凡な日常にあるスピリチュアリティに注目したものが, 「日常のスピリチュアルな体験スケール」(Daily Spiritual Experiences Scale11):DSES 以下, 「DSES」と称する。)であった。Ellison & Fan<sup>12)</sup> は, DSES は, 宗教性やスピリチュアリティの概念化や測定のうえで, 最も重要な現在起こっている革新の一つであるとしている。

##### 3.1.2 DSES の特徴

DSES の研究は, Underwood & Teresi によって独創的に発展した<sup>13)</sup>。彼らは, 量的な実証的研究により, DSES の信頼性, 探索的因子分析, および予

備的な構成概念の妥当性を検討し, これらを論証した。DSES は, 宗教性 / スピリチュアリティが, いかに毎日の生活で表現されるかを捉え, これらを記録するためにデザインされ, 複数項目で構成された自記式の測定ツールである。従来, 一般的なスピリチュアリティの測定スケールでは, 宗教的な側面, 礼拝等の出席の事項, あるいは, 人間の固有の宗教性, その反対に, そこに付帯する宗教性が変数として選択された。また, 単一的な宗教の伝統に基礎付けられたスケール, あるいは, そのアプローチを回避することを試みたスケールの両方が, 実存的な観点 (existential perspective) からの意味や価値のようなものを考察してきた (p.22)<sup>13)</sup>。このように, 一般的なスピリチュアリティの測定ツールは, 信条や実践の用語を用い, スピリチュアリティを最大限に測定することを試み, その項目も多くの要素をから成り立ってきた。それに対し, DSES は, 特定の宗教の信条 (belief), 振る舞い (behaviors) よりむしろ, 普通の人々が日常の暮らしを営むうえでの, 超越者 (transcendence) (神, 神聖なもの), 生活上での超越者との相互関係, あるいは, 関わり合いの知覚, また, 日常生活のただなかでのスピリチュアルな感覚や内的体験を測定するものとして開発された (p.23)<sup>13)</sup>。一般的な社会調査では, 調査のための尺度を短くする必要があるため, DSES の6項目版が使用される (p.22)<sup>13)</sup>。

なお, DSES は世界各国で翻訳されている。DSES は, スペイン語, 韓国語, ヘブル語, ベトナム語, フランス語, 中国語等に翻訳され調査研究に使用されている。異なる文化的情況のなかでも日常のスピリチュアリティを把握する有益な枠組みとして提供されている<sup>13)</sup>。上記①の文献のうち Ng et al.<sup>14)</sup> は, 文化の境界を越えた DSES の中国語版の検証を行っている。

また, DSES は, 様々な臨床や支援の場面での発展的な活用を想定し, 多角的な観点から, このスケールの構成要素や構造が検証されている<sup>15-17)</sup>。上記①の文献のうち, Currier et al.<sup>18)</sup> は, 人生の終末 (EOL: the end of life) を迎える患者を対象に DSES の活用を想定し, DSES の因子構造の解析を行い, 有神論的経験の下位尺度と非有神論的経験の下位尺度の両方を含む DSES のアプローチがもつ役割を探究している。

##### 3.1.3 DSES の目的と分析の焦点

###### (1) DSES が測定する内容

DSES では, スピリチュアルな感情や気づきの内的な体験は, 多くの個人の毎日の宗教的, そしてスピリチュアルな生活 (lives) のひとつの統合された

部分 (an integral part) であると考え<sup>13)</sup>。これに従い, DSES は平凡なもの (the mundane), そして, 深い内的な平和の意識 (a sense of deep inner peace) から掘り起こした, 畏怖 (awe), 喜びのような, 世間で語られる日常のスピリチュアルな体験に目を向ける<sup>13)</sup>。

DSES は, 宗教性 (religiousness) とスピリチュアリティ (spirituality) を区別し, 両者には相違があると理解し, 特定の宗教の境界を超えることを意図している。そして, 日常生活での, 超越者 (the transcendent) (神, 神聖なもの) の知覚 (perception), あるいは, 生活のなかでの超越者との相互作用 (interaction) あるいは関わり合い (involvement) の知覚を測定する。さらに, 日常の出来事における思考プロセスと感覚を通し編み込まれた, スピリチュアルな, あるいは, 宗教的な観点 (perspective) のもつ側面 (aspects) に対する省察を通して, 日常生活の出来事特定の瞬間での自己を表現するものとしての内的な質 (inner qualities) を導き出すような質問を作成するための試みが行われている<sup>14)</sup>。

## (2) DSES の測定項目

DSES は, 16項目, あるいは, この短縮版6項目で構成される自記式質問紙法 (self-report measure) として作成されている<sup>19)</sup>。これは, 日常生活 (daily life) における超越するもの (the transcendent) と結びつく普通の体験 (ordinary experiences) を評価している。これには, 畏敬 (awe), 感謝の念 (gratitude), 慈愛 (mercy), 超越するものとのつながりの意識 (sense of connection with the transcendent) とあわれみ深い愛 (compassionate love) のような構成概念が含まれる。さらには, 認識/直観の気づき (awareness of discernment/inspiration), 深い内的な平和の意識 (a sense of deep inner peace) が含まれ, これらが測定されている<sup>19)</sup>。

併せて, Underwood<sup>20)</sup> は, DSES の質問事項とその解釈に必要な次の用語を説明している。全般的な論点 (general issue) に関わる用語として, 「神」 (God), 「感覚」 (feeling) と 「体験」 (experiencing) を挙げている。また, 質問項目に関連する用語として, 「つながり」 (connection), 「喜び」 (joy) と 「自己を超えた意識」 (transcendent sense of self), 「力と慰め」 (strength and comfort), 「平和」 (peace), 「神からの助け」 (divine help), 「神の導き」 (divine guidance), 「神の愛の知覚」 (perceptions of divine love), 「恐れ」 (awe), 「感謝」 (thankfulness) と 「真価を認める」 (appreciation), 「憐み深い愛」

(compassion love), 「結合と親密さ」 (union and closeness) を取り上げている (p.189-203)。

DSES は, 単にスピリチュアリティの包括的な理解を目指さずのではなく, 信条等への認識的な気づきよりも, むしろ感情と主観的な DSE の体験を測定する。そして, DSE での評価では, 日常のスピリチュアルな体験における感情と感覚に焦点が当てられている (p.12-13)<sup>10)</sup>。

## 3.2 福祉領域における DSE 研究の対象および内容

DSES を使用した研究では, その測定結果から, DSE は, 心身のストレスや不安, 抑うつと負の相関があり, 一方, 楽観主義や知覚されたソーシャルサポート, 生活満足感とは正の相関があることが報告されている<sup>21)</sup>。これらの特徴を踏まえ, 本項では, DSES を研究に用いた, 上記①論文タイトルに DSE 文献15件を精査し, 福祉領域における DSE 研究の対象および内容について考察する。

### 3.2.1 一般高齢者における DSE

上記①論文タイトルに DSE が含まれる文献15件のうち, DSES を使用した研究では, がん等に罹患し, 生命の危機的状況での終末期医療の対象者のみでなく, 日常のスピリチュアルな体験との観点から, 地域で生活し活動する一般の高齢者とその宗教性やスピリチュアリティが分析対象とされている。15件中11文献における調査対象者は, 必ずしも医療機関等で治療を受ける罹患中の患者でなく, 老人ホームの入居者, アルツハイマー病およびその他の加齢にともなう慢性疾患を有する地域住民, 高齢者センターや退職者ホームの利用者等の在宅や生活施設で暮らしを営み活動する一般の高齢者であった。

Kalkstein & Tower<sup>22)</sup> は, DSES を用いた実証的研究において, スピリチュアリティとポジティブな身体的, 社会的, 精神的健康 (mental health) の結びつきを報告している。この調査では, ある地域研究に参加した410人と, 老人ホームの住人87人に対して, DSES による調査が行われた。その結果, 宗教団体間の人口学的サブグループ比較では, ユダヤ人の DSE が有意に低く, また, 宗教団体に参加していない回答者が最も低いスコアであった。そして, 女性は男性よりも DSE スコアが高く, 教育のレベルが上がるにつれて DSE スコアが低かった。加えて, DSE は身体的・精神的幸福の指標との間に (1つを除きすべてで) 正の関連をもち, DSE の高さはより少ない精神病理, より親密な友情, 自己評価されたより良好な健康状態と関連していた。

Skarupski et al.<sup>21)</sup> は, DSES を用いた実証的研究

で、地域で何らかの活動している高齢者の DSE について考察している (p.779)。地域住民の高齢者における DSE のレベルを記述し、スピリチュアルな体験のレベルを祈りや宗教サービス出席のレベルと比較し、スピリチュアルな体験と相関する人口統計学および心理社会的変数を検証している。このデータは、シカゴ保健・老化プロジェクト (the Chicago Health and Aging Project) の6,534人の参加者からのものである。これら参加者は、65歳以上のアルツハイマー病およびその他の加齢にともなう慢性疾患を有する地域住民等を含むものであった。彼らはこの調査で DSES の5項目版を用いている。その結果、参加者の大半は少なくとも毎日スピリチュアルな体験を有すること、また、アフリカ系アメリカ人および女性の方が、白人および男性より DSES スコアが高かったこと、加えて、祈りと礼拝は、DSES のスコアと中程度に関連していたことを報告している。

Bailly & Roussiau<sup>23)</sup> は、フランスの高齢者の DSES 短縮版の心理学的特性について評価している。この研究では、65歳以上の地元の高齢者センター、退職者ホームを利用する高齢者を対象とし、DSES の心理学的特性を調べるために二つの研究が行われた。因子分析および確証的因子分析により、DSES が単一の一般的因子で概念化が示された。DSES の信頼性は、良好な内部一貫性および良好な時間的安定性から満足し得る状態のようであった。これらの研究結果は、DSES 短縮版のフランス語訳の心理統計学的特性について予備的証拠を提供している。

### 3.2.2 DSE と健康 (health)

本研究で文献検索された、上記①論文タイトルに DSE がある文献15件を精査した結果、スピリチュアリティを日常性の観点から捉える DSE が、DSES を用いた調査研究において、広義の健康 (health) との関連において議論されていた。

#### (1) DSE と身体的な側面

Fitchett & Powell<sup>24)</sup> は、宗教的な信念および活動 (religious beliefs and activities) と活動は血圧の低さ高血圧の少なさと関連するという先行研究を踏まえ、DSES の8項目版と収縮期血圧 (SBP) および高血圧との関係を調べている。全国女性健康調査 (SWAN: Study of Women's Health Across the Nation) に参加する1,060人の白人、および、598人のアフリカ系アメリカ人の中年女性のデータを用い、彼らは、回帰方程式とロジスティック回帰および混合効果回帰を使用し、データ分析を行った。その結果、白人であれアフリカ系アメリカ人女性

であれ、DSES の高さ別にみた収縮期血圧 (SBP: Systolic Blood Pressure) は、統計学的に有意差が認められなかった。DSES は、3年間の追跡期間における SBP、高血圧状態、高血圧症発症の増加に対しても予防的な効果をもっていなかった。ことから、DSE は、中年女性の SBP や高血圧症に対して保護的とは考えられず、今後の研究において、宗教と血圧との関係を調整する要因を検討すべきであると指摘している。

#### (2) DSE と心理的な側面 (抑うつ)

DSE と心理的・精神的な側面は、特に、DSE と抑うつとの関連を扱った実証的研究において議論されている。このことは、DSE に関連する文献検索の結果、抽出された76件のうち、①論文タイトルに DSE が含まれる文献:15件以外の、27件が心理学 (特に、抑うつ) に関連する文献であることから理解できる。

Loustalot et al.<sup>25)</sup> は、大規模なアフリカ系アメリカ人をサンプルとする、ジャクソン・ハート・スタディ (JHS: Jackson Heart Study) において6項目版 DSES の心理統計学的特性に関する最初の検討をおこなっている。JHS には、DSES と宗教的実践の測度が含まれていた。この調査で得られたデータを分析し、内的整合性、多次元性、適合度指標、および相関が評価された。DSES スコアは、DSE の頻度を反映し、信頼性スコアは高かった。また、DSES は、単一の因子に負荷しており、有意な適合度指標を示した。さらに、DSES の項目間には中程度の有意な相関が認められた。これらの評価から、彼らは、このサンプルにおける6項目版の DSES が優れた心理統計学的特性をもつことを確認している。

先述の Skarupski et al.<sup>21)</sup> は、人種がアフリカ系アメリカ人であること、年齢が高いこと、性別が女性の場合、健康状態の自己評価の高さ、より大きなソーシャルネットワークをもつことが DSES スコアの高さと関連していたこと、他方、DSES のスコアの高さは教育水準の高さや抑うつと関連していたことを報告している (p.785-786)。

Park & Roh<sup>26)</sup> は、高齢の韓国系移民の DSE に焦点化した実証的研究をおこなっている。彼らの調査でのサンプルは、ニューヨーク市の大都市圏に住んでいる65歳以上 (平均年齢72.5歳、範囲65~89歳) の韓国系の移民高齢者200人で構成されていた。この調査の結果、回答者は平均的には抑うつを報告していなかったが、30% (200人中60人の回答者) は軽度から重度の抑うつを経験していたことが報告されている。DSE とソーシャルサポートはともに抑うつと負の相関があった。また、DSE と抑うつ

関係はソーシャルサポートにより媒介されていた。

### (3) DSE と心理的幸福・生活満足感

DSEの研究では、健康(health)と幸福(well-being)へのつながりを実証する概念的な基礎項目、および選択のための理論的根拠が提供されている。

Ellison & Fan<sup>12)</sup>は、DSESを用い、米国の成人におけるDSEと心理的幸福(psychological well-being)の関係について検討している(p.247)。彼らは、1998年と2004年のNORC(the National Opinion Research Center)一般社会調査のデータを用い、DSEの社会的パターン、およびスピリチュアルな体験と心理的幸福の複数の側面との関係について検証している。その結果は、DSESと心理的幸福の変数との間に頑健な(robust)正の関連性があることを示唆している。対照的に、DSESはネガティブな感情にほとんど影響を与えないことを示している。DSESは宗教的实践と心理学的変数との関連を説明していなかった。つまり、DSESは宗教的实践の影響を超え、それ以上に、幸福に関連するスピリチュアリティのもうひとつの側面を捉えていることを明らかにしている。

先述のBailey & Roussiau<sup>23)</sup>は、フランスの高齢者におけるDSES短縮版の心理統計学的特性を評価する研究のなかで、DSESの高得点は良好な生活満足度(life satisfaction)および良好な健康状態(health)の自己評価と相関しているが、抑うつとは相関は見られなかったことを報告している。彼らは、「普通の」(ordinary)スピリチュアルな体験は毎日の生活のなかで、喜び、心地よさ、愛、そして、スピリチュアルな平和を高める、と説明し、併せて、先行研究にも言及し、高いスピリチュアリティ、あるいは、高い宗教性の値を示す人は、そうでない人に比べ抑うつがほとんど見られないことを指摘している(p.229)。そのうえで、彼らは、この調査結果で、DSEと抑うつに相関が示されなかった理由について、使用されたスケール：GDS(the Geriatric Depression Scale)はフランスの国民の抑うつを評価するのに必ずしも適したツールでないこと、さらに、高齢者は若者に比べ非定型的な兆候をたびたび表明するため、それゆえにしばしば抑うつが無視される、あるいは、誤診される、と述べている(p.229)。

### 3.2.3 DSE とソーシャルサポート

DSEの研究では、これに着目した福祉領域での支援の観点から、ソーシャルサポート(social support)との有意な関連が指摘されている。Underwood & Teresi<sup>13)</sup>は、DSEを、人が日常を営むうえで関係する身近な他者や社会関係のなかで体験されるスピリチュアルな側面として特徴づ

け、DSESの内容を検討し使用する際に、DSEとソーシャルサポートとの有意な関係性を認めている(p.31)。

DSESを用いた実証的研究にて、ソーシャルサポートは、DSESを構成する因子としても考えられている。ソーシャルサポートには、「神(神聖なもの)からのソーシャルサポート」(social support from the divine)、すなわち、「神からの助け」「神の導き」「神の愛の知覚」等で表現される、人が身をもって「超越なるもの」と関係する直接的な体験により受けとる支援、そして、日常生活で関係する他者との交流や社会からの情緒的な支援や福祉サービス等の手段的な支援が含まれる<sup>13)</sup>(p.24-25)。

Park & Roh<sup>26)</sup>は、既存の研究においてソーシャルサポートが、ソーシャルネットワークの大きさ、接触の頻度、支援を提供する際の相互関係、社会的つながりに対する満足感により説明され、測定されることを概説する。加えて、彼らはスピリチュアリティの観点から、高齢者の宗教的な関与とソーシャルサポートの間には正の相関があるとの特徴を指摘している(p.103)。

Park & Roh<sup>26)</sup>は、高齢の韓国系移民の間で、生存に必要な対処できる資源を見出し、QOL向上の実現のため、DSEやソーシャルサポートと抑うつとの関連を調査するために、高齢の韓国移住者200名を対象に、DSESを用い質問紙調査を実施している。その際、高齢者向けに設計された、ソーシャルサポートを測定するスケール：LSNS-R(Lubben Social Network Scale)改訂版を用い、ソーシャルネットワークの2つの次元：(1)個人が出生または結婚のいずれかによって関連付けられている家族ネットワーク(2)友人近所に住む友人や隣人を含むネットワーク、これらの次元の規模、連絡の頻度、相互関係を測定している。その結果、DSEとソーシャルサポートの両方が抑うつと負の相関にあり、DSEと抑うつとの関係は、ソーシャルサポートにより媒介されることが明らかにされた(p.105-107)。この研究は、抑うつを緩和する方法として、高齢の韓国系移民の生活におけるDSEとソーシャルサポートの重要性を支持している。併せて、福祉領域でのDSEに鑑みた支援において、ソーシャルサポートの機能の重要を示唆している。

このように、DSEと抑うつとの関係は、ソーシャルサポートにより媒介されるが、DSEは、「超越なる者」との直接的な体験からの支援、あるいは、社会関係からの手段的な支援を一方向的に提供される、受容者の内的な安寧にとどまらない。Einolf<sup>27)</sup>は、全米でのDSESを用いた実証的研究から、DSEと

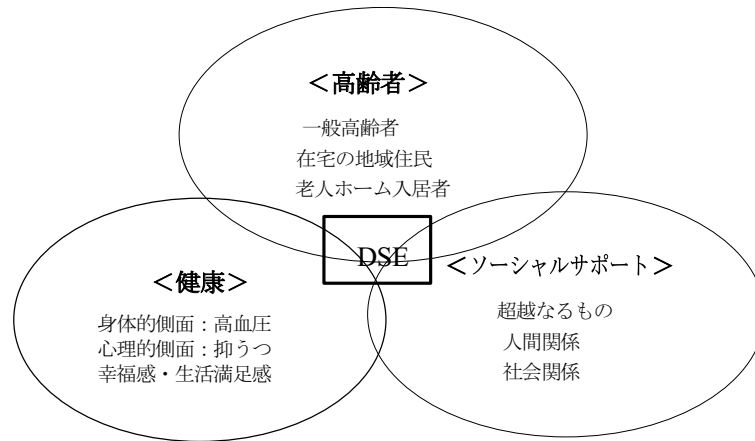


図1 高齢者を対象としたDSE研究を構成する要因 筆者作成

向社会的行動 (prosocial behavior) との関連を検証した。その結果から、彼はDSEがボランティア活動、慈善活動の寄付、および個人が個人的に知る人を助けるための動機となり、統計的かつ実質的に重要な予測因子であることを明らかにしている。

#### 4. 結論

本稿では、文献検索の結果を踏まえ、高齢者を対象とした福祉領域におけるDSE研究の動向を考察した。その結果、このDSE研究における対象は一般高齢者、その要因に広義の健康（特に、心理的側面の抑うつ）、そして、支援の観点からソーシャルサポートに焦点が当てられていることが明らかになった（図1）。

福祉領域におけるDSE研究対象が、ホスピス・緩和ケアの病床患者等に限定されず、一般高齢者、すなわち、地域で暮らしを営む市民であった。これは、DSEを市民レベルまでに一般化し、よりその日常性を強調したものであるといえる。また、DSEを用いた実証的研究のもと、DSEが広義の健康 (health) との関連において議論されていた。さらに、DSE研究では、高齢者への支援の観点から、DSEとソーシャルサポートとの有意な関連が指摘されていた。DSEの考察から、ソーシャルサポー

トが、人間関係のみならず、サポートの源泉に、「神からの助け」「神の導き」「神の愛の知覚」等で表現される「超越なるもの」の存在を認めていることが特徴的であった。そして、ソーシャルサポートが、スピリチュアリティの特質である「超越なるもの」との関係、そして、コミュニティ等の社会関係のなかで機能し、DSEと広義の健康（抑うつ等）の関係を媒介することが示唆されていた。

高齢者の日常生活は、社会関係のなかでの生の営みであり、福祉領域におけるDSEを考慮した高齢者への支援では、生活支援の観点からソーシャルサポートの役割は重要である。今後、スピリチュアリティに配慮した高齢者への支援にあたり、一般高齢者においてDSEが健康やソーシャルサポートと関連することを踏まえ、わが国において、DSEが認知され、その評価手法が開発されること、また、生活支援の観点から、本稿で指摘に留まったが、DSEとソーシャルサポートとの有意性の内実についての検証が研究課題である。そして、日本の社会文化的背景を考慮したDSE研究が深化のなかで、日本版DSESが標準化されること、さらには、高齢者の枠を超え、全世代が一般的な日常生活や社会生活で体感するDSEに配慮した支援の模索につなげていくことが期待される。

#### 謝 辞

本研究はJSPS 科研費17K04290の助成を受けたものです。

#### 利益相反

利益相反について、本研究に関して開示すべき利益相反関係にある企業・法人組織などはない。

## 文 献

- 1) 村田久行：改訂増補 ケアの思想と対人援助—終末期医療と福祉の現場から—川島書店，東京，1998.
- 2) 窪寺俊之：スピリチュアルケア学序説．三輪書店，東京，2004.
- 3) 藤井美和：死生学と QOL．関西学院大学出版会，西宮，2015.
- 4) 岡本宣雄：介護福祉サービスを利用する高齢者の日常的スピリチュアリティに関する研究—語りの分析を通して支援の課題を問う—．川崎医療福祉大学大学院博士論文，川崎医療福祉大学大学院，倉敷，2017.
- 5) 中村雅彦，長瀬雅子：スピリチュアルな癒しに関するトランスパーソナル・パラダイムの展望—癒し，医療，スピリチュアリティの相互関係—．愛媛大学教育学部紀要，51(1)，83-93，2004.
- 6) 谷口憲俊：患者・家族の緩和ケアを支援するスピリチュアルケア—初診から悲嘆まで—．診断と治療社，東京，2008.
- 7) 岡本宣雄：スピリチュアルケアの視点とソーシャルワーク．熊谷忠和，長崎和則，竹中麻由美編，多面的視点からのソーシャルワークを考える—研究と実践をつなぐ新たな整理—．晃洋書房，京都，66-76，2016.
- 8) Watkins DR：Spirituality in social work practice with older persons. In Moberg DO ed, *Aging and spirituality*, Haworth Pastoral Press, New York, 133-146, 2001.
- 9) 窪寺俊之：スピリチュアルケア学概説．三輪書店，東京，2008.
- 10) Sánchez EGM, Arocena FA and Ceballos JC：Daily spiritual experience in Basques and Mexicans: A quantitative study. *Journal of Transpersonal Research*, 2(1), 10-25, 2010.
- 11) Underwood LG：Ordinary spiritual experience: Qualitative research, interpretive guidelines, and population distribution for the Daily Spiritual Experience Scale. *Archive for the Psychology of Religion*, 28, 181-218, 2006.
- 12) Ellison CG and Fan D：Daily spiritual experiences and psychological well-being among US adults. *Social Indicators Research*, 88, 247-271, 2008.
- 13) Underwood LG and Teresi JA：The Daily Spiritual Experience Scale: Development, theoretical description, reliability, exploratory factor analysis, and preliminary construct validity using health-related data. *Annals of Behavioral Medicine*, 24, 22-33, 2002.
- 14) Ng SM, Fong CT, Ted CT, Tsui YL, Au-Yeung SW and Law KW：Validation of the Chinese version of Underwood's Daily Spiritual Experience Scale: Transcending cultural boundaries?. *International Journal of Behavioral Medicine*, 16(2), 91-97, 2009.
- 15) Schuurmans-Stekhoven J：As a shepherd divideth his sheep from the goats': Does the Daily Spiritual Experiences Scale encapsulate separable theistic and civility components?. *Social Indicators Research*, 110, 131-146, 2013.
- 16) Khanna S and Greyson B：Daily spiritual experiences before and after near-death experiences. *Psychology of Religion and Spirituality*, 6(4), 302-309, 2014.
- 17) Kim SH, Martin BJ and Nolt AT：The factor structure and measurement invariance of the Daily Spiritual Experiences Scale. *International Journal for the Psychology of Religion*, 26(3), 240-252, 2016.
- 18) Currier JM, Kim SH, Sandy C and Neimeyer RA：The factor structure of the Daily Spiritual Experiences Scale: Exploring the role of theistic and nontheistic approaches at the end of life. *Psychology of Religion and Spirituality*, 4(2), 108-122, 2012.
- 19) Underwood LG：The Daily Spiritual Experience Scale: Overview and results. *Religions*, 2, 29-50, 2011.
- 20) Underwood LG：Ordinary spiritual experience: qualitative research, interpretive guidelines, and population distribution for the Daily spiritual experience scale. *Archive for the Psychology of Religion*, 28, 181-218, 2006.
- 21) Skarupski KA, Fitchett G, Evans DA and de Leon CF：Daily spiritual experiences in a biracial, community-based population of older adults. *Aging & Mental Health*, 14(7), 779-789, 2010.
- 22) Kalkstein S and Tower RB：The Daily Spiritual Experiences Scale and well-being: Demographic comparisons and scale validation with older Jewish adults and a diverse Internet sample. *Journal of Religion and Health*, 48(4), 402-417, 2009.
- 23) Bailly N and Roussiau N：The Daily Spiritual Experience Scale (DSES): Validation of the short form in an elderly French population. *Canadian Journal on Aging*, 9(2), 223-231, 2010.
- 24) Fitchett G and Powell LH：Daily spiritual experiences, systolic blood pressure, and hypertension among midlife women in SWAN. *Annals of Behavioral Medicine*, 37, 257-267, 2009.
- 25) Loustalot F, Wyatt SB, Sims M, Ellison CG, Taylor HA and Underwood L：Psychometric testing of the Daily



- Spiritual Experiences Scale among African Americans in the Jackson Heart Study. *Journal of Religion and Health*, 50(3), 675-685, 2011.
- 26) Park J and Roh S : Daily spiritual experiences, social support, and depression among elderly Korean immigrants. *Aging & Mental Health*, 17(1), 102-108, 2013.
- 27) Einolf C : Daily spiritual experiences and prosocial behavior. *Social Indicators Research*, 110, 71-87, 2013.

(令和2年11月20日受理)

## Research on Daily Spiritual Experiences (DSE) for the Elderly: Focusing on Literature in English

Nobuo OKAMOTO

(Accepted Nov. 20, 2020)

**Key words** : daily spiritual experiences, the elderly, health, social support

### Abstract

This paper focuses on English-speaking literature on the “Daily Spiritual Experiences” (DSE) of the elderly related to the social welfare area, especially social work. An overview of the history and contents of research on support in the welfare area was reviewed. As a result, the target of DSE research in the welfare area was the general elderly, that is, citizens living in the community. This can be said to generalize the DSE to the citizen level and emphasize its everydayness. In addition, DSE studies were discussed in the context of health in a broad sense, based on empirical studies using the DSES method. Furthermore, support for the elderly considering DSE in the welfare area was significantly associated with social support. Social support functioned in the relationship with the “transcendence” which is a characteristic of spirituality, and in social relationships such as communities, and contributed to the mitigation of DSE and depression in the elderly. This suggested that it is important that DSE is taken into consideration and social support is secured in the living support for the elderly in the welfare area.

Correspondence to : Nobuo OKAMOTO

Department of Social Work  
Faculty of Health and Welfare  
Kawasaki University of Medical Welfare  
Kurashiki, 701-0193, Japan  
E-mail : [nobuo@mw.kawasaki-m.ac.jp](mailto:nobuo@mw.kawasaki-m.ac.jp)

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.30, No.2, 2021 421 – 429)